

情報科学専門学校

令和5年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	令和5年7月31日(月) 16:00~17:30		
場所	情報科学専門学校 6階 608教室		
参加者	学校関係者評価委員 外部委員	小川名 剛彦	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会 常務理事
		長谷川 長一	株式会社ラック新規事業開発部 産学官連携事業室 室長
		松岡 秀和	株式会社日経統合システム上席執行役員 セキュリティビジネスユニット長
		迫頭 紳一	情報科学専門学校 情報セキュリティ学科 保護者
	学校関係者評価委員 内部委員	那須 宗夫	教務部長
		武藤 幸一	技監
		小倉 正己	教務次長
		滋野 謙太郎	教務課長(34年制学科・234学年担当)
		鈴木 英人	業務リーダー(2年制学科・1学年担当)
		大久保 繁	業務リーダー(34年制学科・1学年担当)
	佐藤 真一	業務リーダー(2年制学科・2学年担当)	
資料	・令和5年度学校関係者評価会 実施要領		

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念は開学以来、明確に示されているが、必ずしも専門分野の特性が明確になっているわけではない。また、教育理念や目的、育成人材像が教職員に十分理解され浸透するには至っていない。 ・保護者や学生に対して教育理念や目的、育成人材像と日々の教育活動を関連付けて説明することが十分に行えているとはいえない。 ・各学科の教育目標や育成人材像は明確にされているものの、個別の授業科目への反映が十分に行き届いているとはいえない。 	<p>(時間により割愛)</p>

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数増加に伴う教員不足と教員各個の能力の差により担当コマ数の負担は差異が生じている。 ・産学連携案件などで学外の関係者と意見の相違があった際に、担当者以外に相談するところがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術は大いに活用するのが良い。バックにあるメカニズムを理解して、積極的に利用すべき。 ・ChatGPTなどの生成AIについても、AIということに限らず新しい技術はどんどん使ってほしい。

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか（iCD（i コンピテンシ ディクショナリ）と関連付けて到達目標を明確にできているか） ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・講義および実習に関するシラバスは作成されているか（学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか） ・シラバス（作成されていればコマシラバス）には到達目標が記載されているか（Can-Do を意識した到達目標の明示） ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項（作成されていればコ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数増加に伴い常勤・非常勤ともに教員は不足している。特に実践 AI 科や新設する先端 IT システム科 e スポーツコースなど特定分野の能力に長けた教員の確保に難航している。 ・e スポーツでは、個人の教員ではなく法人に依頼して指導を受けている。AI などもオンライン授業などをやっている業者に問い合わせるなど、今までの中途採用とは別のチャンネル、契約内容でも要員確保を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部連携はどんどん行うべき。こうした取り組みは専門学校の良いところなので、どんどん進めて欲しい。 ・IT 系の連携はよくあるが、IT と関係のない分野との連携も面白い。例えば、農業、漁業、畜産など IT が必要な分野は多くあるので、そうしたところと連携すると幅が広がり、相互に学ぶことが多い。

<p>マシラバス) は事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか</p> <ul style="list-style-type: none">・実技・実習が講義と連動するなど、効果的学習に配慮されているか・カリキュラムに関し、定期的に外部者（IT 企業、情報系業界団体等）の評価や意見を取り入れているか・実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則（情報セキュリティ、個人情報の管理・取扱い、著作権、SNS の利用等）が整備され、公表されているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・カリキュラムの作成・見直し等に関し、外部関係者からの評価や意見を取り入れているか・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		
--	--	--

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・目標とする資格試験への合格率はどうか ・卒業生の就職率はどの程度か ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか） ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではオンラインがベースであったため、就職活動やコンテストに参加など学生を動かすことが難しい面があった。 ・コロナによる制約が解消されつつあり、対面での活動や対話の機会をより増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社説明会の多くはオンライン実施となり、遠方の学生も多く応募してきている。学生にとっては対面とオンラインのそれぞれの特徴を把握し、上手く活用していくことが重要。 ・AIの活用においては、例えばセキュリティ分野ではディープラーニング・犯罪検知等、活用されている。 ・DX 対応人材としてはマインドスタンスを変えられる事が必要。常識にとらわれず、それまでの経験や勘に固執せず、新しい業務像を提案できることが重要。こうした提案を推進していくためにもコミュニケーション能力は必要となってくる。 ・今年度情報科学専門学校からも内定を複数出したものの、内定承諾を得たのは1名のみ。今年はIT系全般として学生が売り手市場になると考えられる。採用目線では、コロナ環境下でどれだけ他社とのコミュニケーションを取れたかが重要だと考えている。

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが解消しつつあり、対面授業へシフトしてきているが、会社説明会などは引き続きオンラインで開催されており、対面・オンライン両面での設備の確保が必要。 ・対面授業での教室やスペースを確保しつつ、オンライン説明会などで必要となるワークブースなど確保し予約システムなどの整備も進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトに関しては、学生パワハラ・セクハラに遭うリスクもあるので、一概に勧められない面もある。安心して従事できるアルバイト先を学校が斡旋、紹介してくれると良いと思う。 ・塾講師や家庭教師など「教える」アルバイトは良いと思う。大学などでは授業のティーチングアシスタントというアルバイトもある。小中学生向けの「IT 教室」など学校での学びを生かしたアルバイトができれば尚良いと思う。

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか。またその大きさは学生数に見合ったものであるか） ・カリキュラム上必要となる実習に用いる器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が備わっているか。また必要な数のライセンスが準備されているか。 ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品は定期的に点検・更新を行っており、卒業研究等での貸し出し対応等に柔軟に対応できている。しかしながら、担当者が管理しきれない状況も起きている。 ・備品の用途別に管理担当者をわけ、柔軟に貸し出しに対応できる体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回オンライン授業とのことだが毎日登校したい学生もいるのでは。講義はオンラインであっても教室で受講できる環境があれば良いと思う。 ・教室で対面授業というのが理想ではあるが、オンライン授業であれば地方の学生も学ぶことができる。全国的に見ればそうした希望者もいるのではないか。 ・他大学、大学院では「ハイブリット」の形を取っているところがある。教室で授業を行っているが、オンラインでも参加できる。

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの学校説明などより分かりやすい説明動画などが不足している。 ・4年制学科に比べ2年制学科については魅力の発信が難しい面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年制の学生は、採用面接時点で1年間しか勉強してきていないのでスキル面で期待することは難しい。その分、人間性と高校時代を含めそれまでの経験から判断する。逆に4年制は時間がある分なりの成果、スキルを期待している。 ・大学生、大学院生と同様の条件で採用試験を受けるので、実績で見るとやはり2年制卒の学生は厳しい。他分野を学んできている学生も採用しているので、必ずしも業務に直結するスキルを求めているわけではなく、伸びしろを含めて評価している。現実的に2年制は厳しい面はあるがチャレンジしてほしい。

2-8. 教育の内部質保証システム

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・専任教員による相互評価など、適切な評価体制を有し、授業評価を行っているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・教職員に対する専門分野（IT 分野及び関連分野）に応じた能力開発のための研修制度ないし機会はあるか。（研修等の効果の評価し、文書により記録しているか） ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISMS などの内部監査を定期的に行っているが、管理場所や連絡経路などの情報の共有の徹底が不十分と思われる。 ・ ISMS などの内部監査に関して、参照すべき情報の在りかを容易に見いだせるよう、ポータルサイトなどの情報提供の場を見直し、定期的に告知を行う。 	<p>(時間により割愛)</p>

<p>に努めているか</p> <ul style="list-style-type: none">・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか・自己点検・評価結果を公開しているか		
--	--	--

2-9. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。 	<p>(時間により割愛)</p>

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で学外活動に制約があったが、解消しつつあるので外部との連携を進めていく。 ・これまで培ってきた学外との連携先や、神奈川県のカンファレンスなどを活用し、地域との連携活動をすすめていく。 	<p>(時間により割愛)</p>

2-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学修成果が国内外で評価される取組を行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入学を希望する留学生がおらず、留学生の在籍数は0名となっている。 ・意欲ある学生の留学を支援する「G-Leader 留学支援プログラム」を12名が利用。 ・コロナ前に実施していたセブ島留学の準備を進める。 	<p>(時間により割愛)</p>

以上

次回、R05年度の自己点検・評価に関する学校関係者評価委員会は2024年6月に開催させていただきます。